

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2870902273
法人名	医療法人社団平生会
事業所名	グループホーム みどりの風
所在地	兵庫県西宮市大畑町2番13号 (電話) 0798-69-0100

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号
訪問調査日	平成20年8月27日
評価結果確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	25 人
常勤11人, 非常勤 14人, 常勤換算 11.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	2階110,000円, 3階15,0000円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有 (2階 660,000円, 3階 900,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 無 ()	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	550 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	3	要介護2	5		
要介護3	5	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83.1 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮本クリニック 柳澤クリニック 西宮協立脳神経外科 たかみ歯科医院
---------	-----------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内の壁や床・置かれてる家具などは落ち着いた温かい色調で統一され心安らぐ環境への配慮がみられる。リビングにある掃き出しの大きな窓からの爽やかな風や柔らかな日差しに包まれながら、入居者はほのぼのとした時を過ごしている。管理者・職員は認知症ケアの基本である認知症への理解を研修等で高め、入居者が尊厳をもって地域で暮らし続けていけるよう日々支援している。地域の協力を得て音楽療法・お化粧などの美容教室・踊りや演奏会の鑑賞など五感を刺激するアクティビティの工夫に取り組み、食事については入居者の身体状況に応じ食形態を工夫し、年間行事の中で手打ちそばや寿司の出前実演など楽しみを取り入れた食事環境にも配慮している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	昨年度の評価の中で取り組んでいた項目「日々のケア」「家族に対しての情報の開示」等について意識しており、現場のスタッフともよく話し合い改善に向けて努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	昨年度の評価の指摘を会議やミーティング等機会ある毎に話し合い、今年度に活かしていく方法をできることから取り組むよう現場とも話し合い、会議やミーティングで機会のある毎に前年度の評価の内容について検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	2、3ヶ月に一度運営推進会議を開いている。活動報告を実施し、意見や要望については検討するよう努めている。また社協の職員とは連絡を取り合っている。サービスについての相談を密に行い、サービスに生かそうとする姿勢がうかがえる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	活動報告、ケースの記録の内容についてもホームの便りを通じて毎月家族に報告している。報告の方法についても個人ごとに対応している。また苦情がある場合は書面に記入し、適切に対応している。苦情に対するマニュアルも作成中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	管理者は地域とのつながりを重要と考えており、管理者自身も認知症養成講座講師を務め、地域高齢者活動に取り組んでいる。地域の行事・地域活動に参加すると共に、施設内の行事に地元の方々を招待するなど、交流が盛んである。また、複数のボランティアとの交流もある。

2. 第三者評価結果書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型についての理念をホーム内に掲示し、職員は理念を意識しながら実践に向け努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング・日常的に理念を伝え理念に添ったケアを行っているが、今後も一層理念の浸透・共有に向けて取り組む姿勢がうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域とのつながりを重要と考えており、管理者自身も認知症養成講座講師を務め、地域高齢者活動に取り組んでいる。地域の行事・地域活動に参加すると共に、施設内の行事に地元の方々を招待するなど、交流が盛んである。また、複数のボランティアとの交流もある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年度の評価の中で取り組んでいた項目「日々のケア」「家族に対しての情報の開示」等について意識し、現場のスタッフともよく話し合い改善に向けて努めている。また、会議やミーティングで機会のある毎に前年度の評価の内容について検討している。可能なことから改善しようとする姿勢がうかがえる。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2～3ヶ月に一度運営推進会議を開き、施設の活動報告を行い、参加者の意見や要望については検討するよう努めている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>電話が主であるが社協の職員とは連絡を密に取り合っている。サービスについての相談を行い、サービスに生かそうとする姿勢がうかがえる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>活動報告、ケース記録の内容についてもホームの便りを通じて毎月家族に報告している。報告する方法についても個人ごとに対応している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しているが全く利用されていないが、苦情がある場合は書面に記入し、適切に対応している。苦情に対するマニュアルも作成している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動については、ホームの活動報告にてご家族へは入退職のお知らせをしている。ご家族からの要望もあるが、可能な限り対応し馴染みの関係を保つことを大切にしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画に添って、年3回内部研修も行い職員の技術向上に努めている。研修内容についてはミーティング、会議等で職員全体が周知できるよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		他のグループホームの職員と話し合う機会をもち、お互いにサービスの質を高めあうよう努力している。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		入居前から利用者と接して交流を深め、体験を通じて施設に馴染んでもらえるよう努めている。生活の上でサービスについて納得してもらってから入居につなげている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている		普段の生活の中で利用者一人ひとりと隔たりなく接することを心がけ、利用者と共に楽しむ中でお互いに支え合うことを念頭においている。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>希望、要望については、ご家族や担当の職員と共に検討しながら対応している。利用前の生活に視点をおいて考慮し、希望・要望に添うよう努めている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族の意見を参考にしながらアセスメントを基に、担当職員とケアマネージャーにより、本人に適切なプランを作成するよう努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に介護計画の見直しは行っている。変化が見られた場合は家族・担当スタッフ・ケアマネージャーと相談の上、実情に即した介護計画の作成を行っている。</p>		<p>変化が見られない利用者についても、月に1回程度は、本人や家族の希望・意向を確認し、職員全体で予防的な視点での見直しが望まれる。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者・家族の要望や状況に応じ個別での買物や外食などの外出に付き添う等支援している。看護師を職員として配置し、24時間体制にて入居者の体調管理に努め医療連携体制が整備されている。入居者の通院や入院時の送迎・面会は、本人や家族の状況にそって柔軟な対応ができるよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科や心療内科の定期的な往診がある。1日2回のバイタルチェックなど日々の健康管理や24時間体制にて緊急時に相談できるよう連絡体制を整えている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>母体が医療法人ある為、ターミナルケアの体制も整い、入居者の状態変化にそって段階的な話し合いを重ねている。入居時や家族会にて重度化した場合や終末期のホームの方針について書面で説明し、家族の同意を得ている。</p>		<p>重度化や看取りについてのマニュアルを作成し、方針や対応についての職員の理解を深め、共通認識を持つために、ミーティングや研修会を計画的に開催することが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>管理者・職員とも認知症への理解を深めていく為に研修等の機会を持ち、入居者の尊厳の重視を認知症ケアの基本として捉えている。一人ひとりのプライドを尊重した言葉掛けや対応に配慮している。ホーム便りの写真掲載については本人や家族の了解を得ている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の生活歴について本人や家族から聞き取り、フェースシートに記録し職員間で共有している。本人主体の暮らしができるよう配慮し、起床・就寝・入浴等は個々の今までの習慣や本人の心身の状況に沿って支援している。食事について、心身の状況等で居室での食事を希望する人へ柔軟に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>外部業者から搬入された食材料を基に、調理・盛り付け・配膳などはホームで行い(チルド食品活用の機会もある)、入居者にも力量に沿って手伝ってもらっている。職員は入居者と共と同じ食事を味わいながら、食べこぼし等をさりげなくサポートしている。外食の機会やホーム内での食事形式に変化を取り入れる等食環境の工夫に取り組んでいる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本は週に3回の入浴となっているが、希望があれば毎日の入浴や夜間の入浴にも対応できる体制を整えている。入浴チェック表を活用し、拒否傾向については職員間で検討し言葉掛け等に配慮している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>ボランティアなど地域資源の活用にて音楽療法・民謡・美容・手芸等のアクティビティの機会を工夫し、四季を通じての各種行事への参加など楽しみの場を提供している。食事については手打ちそばや寿司の出前実演・居酒屋の雰囲気味わってもらおうなど食事環境への工夫も見られる。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者の希望に応じて散歩・喫茶店でお茶を楽しむ等気軽な外出ができるよう、個別対応にも配慮しながら支援している。ホームは利便性の良い地域に位置しているため、年間の行事として遠足・旅行・外食等外出の機会も多い。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターやベランダは施錠が無く、入居者に閉塞感を与えないよう配慮している。玄関は防犯の為、外からは自由に入れないが、中からは自由に出来る状況となっている。事務所やキッチンから入居者の状況をさりげなく見守る事が可能で、自由な暮らしを支えながら安全面にも配慮していくよう努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との協力で年に1回の避難訓練と年に2回の設備点検を実施している。自治会等に働きかけ災害時の協力体制を呼びかけている。災害発生に備えて食料品の備蓄がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスや総カロリーに配慮し、定期的に食事量を記録している。水分は適宜飲めるよう支援し、透析治療中の入居者やその時々々の個々の体調に応じて記録管理している。入居者の嗜好について把握し記録しており、定期的に状況の変化がないか見直しを行的確な把握ができています。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、大きな掃き出しの窓からの日差しを適宜調節し、テーブルには花瓶に花を生け入居者は心安らく時間を過ごしている。24時間の換気と空調管理にて気になる臭いや空気のよどみが無いよう配慮している。雑誌や本・新聞の設置コーナーがあり、入居者が自由に閲覧できるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと物置は備え付けで、その他馴染みの家具やぬいぐるみ等の装飾品など持込みくつろげる空間となっている。入居者のプライバシーに配慮し、希望があればカーテンで間仕切りできるよう居室内の工夫がある。		

は、重点項目。